

第9次 苫前町社会教育中期計画

令和3年度～令和7年度

まちの活力を高め、優しさとふれあいが
あふれる人づくりを目指して



令和3年3月
苫前町教育委員会

はじめに

苫前町教育委員会

教育長 池田 文敏

人口減少、少子・高齢化の進展、人口知能（A I）、ロボットやビッグデータなど情報通信技術の急速な発展などにより、教育を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、これに伴い新たな課題が生ずるなど求められる学習のニーズも多様化しています。

このような中、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い今だ先行きが見えない状況が続いておりますが、令和2年2月1日発行の全国社会教育委員連合会会報NO88の金藤副会長の言葉に、「社会教育委員の皆さんの活動の背景に、極めて困難な状況にあっても決して社会教育を停滞させてはならないという強い情熱（パッション）があることを改めて実感しました」とありました。まさにこの厳しい状況だからこそ社会教育の情熱を発揮する時ではないでしょうか。

平成30年12月に中央教育審議会がまとめた「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」は、人口減少やコミュニティの衰退を受けて、住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中、「『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」が一層重要であるとしており、そのうえで新たな社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育」が示されております。

この度の第9次苫前町社会教育中期計画は、5年間で重点的に取り組む分野に絞っての計画づくりとなっております。苫前町の喫緊の課題であるということを十分に認識し、「**まちの活力を高め、優しさとふれあいがあふれる人づくりを目指して**」の具現化に向けまして、具体的な取り組みを推進していくよう努力をさせていただきますので、町民の皆様、関係機関・団体の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

終わりになりますが本計画の策定作業のために、奥山委員長を中心に度重なる会議に足を運んでいただき、ご尽力を賜りました策定委員の皆様にご心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

第9次苫前町社会教育中期計画策定にあたって

第9次苫前町社会教育中期計画策定委員会
委員長 奥山 和彦

苫前町社会教育推進のため「第9次苫前町社会教育中期計画」の策定に際して策定委員皆様のご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

苫前町の住民が生涯にわたり学びたいときに学ぶことができる、また学びたいと思っただけのようにするにはどのような環境にしていくことが必要かを中心に、令和3年度からの実施すべき施策についてグループワークを交え、意見交換をしながら策定作業を進めました。

今回の中期計画は全領域を検討するのではなく、この5年間で重点的に取り上げる領域を定め、その部分に注力していく方向で進めました。その方法も苫前版マンドラートとして、対象となる領域の振興に必要なことは何かのアイデアを積み重ね、1つひとつの項目に対してそれぞれの持つ熱い思いを交換し合いました。

本計画策定時には新型コロナウイルスの感染が拡大し、会議日程が延期となるほか、社会教育事業についても中止や縮小を余儀なくされるなど、大きな影響を受けました。

このことによりオンラインなどによる事業展開の必要性がクローズアップされましたが、学校運営に関するオンライン化は国庫補助金の創設などにより着々と進んでいるものの、社会教育施設のオンライン化には補助制度もないため環境整備の大きなハードルとなっています。

そのような中でも住民の学びを応援するためにできることから始め、住民の求めに対応できるよう進めてほしいと思います。

この計画が着実に推進され、まちがより一層元気になることを祈念し、策定委員会を代表してお礼とさせていただきます。

苫前町民憲章

- 1 心と体をきたえ、元気ではたらき、活気あふれる豊かなまちをつくります。
- 1 教養をたかめ、視野を広げて、北方の風土に根ざした心豊かなうるおいのあるまちをつくります。
- 1 きまりを守り、たがいに助け合って、明るく住みよいまちをつくります。
- 1 未来をつくる若い芽を育て、希望にみちた力みなぎるまちをつくります。
- 1 自然を愛し、環境をととのえ、きれいなまちをつくり
ます

(昭和55年3月制定)

苫前町教育目標

(平成3年2月制定)

健康で、実行力のある人

- ◎北方生活・風土に即した体育、スポーツにはげみ、その生活化を図る。
- ◎体力・気力の保持増進をめざして、継続的に自らをきたえる。
- ◎保険・安全に対する知識を高め、健康な生活を維持する。
- ◎公害や災害について理解を深め、生命の安全保持につとめる。
- ◎家庭や社会における保健衛生について理解を深め、強い意志をもって、その改善につとめるとともに、よい習慣を身につける。

個性を生かし、創意工夫する人

- ◎互いの個性を尊重し、創造の喜びを感得するとともに、生活に誇りと生きがいをもつ。
- ◎郷土の近代化をめざし、創造的な知性と技能を積極的に身につけ、その活用をはかる。
- ◎生活を改善するために情報を的確に判断し、活用する能力を身につける。
- ◎自然や社会に対する科学的知識を深めて、生活の向上をはかる。
- ◎郷土の習慣や生活様式を改善し、明るく合理的な生活様式を工夫する。

心豊かで、思いやりのある人

- ◎自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心を持ち、ゆとりのある生活をいとなむ。
- ◎お互いに信頼し合い、きまりや約束を守って社会生活の向上につとめる。
- ◎家族相互の愛情、思いやりと尊敬によって、明るい家庭を築くことにつとめる。
- ◎自分の利益だけにとらわれることなく、互いの立場を認め合い、常に他人の幸福をも考えて行動し理想社会の実現につとめる。

勤労意欲をもち、責任を果たす人

- ◎適切な職業を選択し、正しい勤労観をもち、生涯の喜びをもつとともに生活に生きがいをもつ。
- ◎仕事の役割と責任を自覚し、自主自立の生活をいとなむ。
- ◎職業の社会的価値を認識し、郷土の発展につくす。
- ◎職業についての必要な技能を修得し、仕事を効率的にする。
- ◎郷土の生産活動を理解し、限りある資源を大切にして、生産を高める意欲をもち、改善につとめる。

郷土を愛し、国際社会に生きる人

- ◎郷土の自然に親しみ、動植物を愛護し、環境美化の推進につとめる。
- ◎郷土の文化活動に積極的に参加し、個性豊かな文化の創造につとめる。
- ◎優れた芸術文化の理解と鑑賞を通じて教養を高める。
- ◎余暇を善用し、うるおいのある生活をいとなむ。
- ◎郷土の歴史と文化を正しくうけつぎ、その発展と創造につとめるとともに国際社会に生きる日本人としての資質を身につける。

目 次	
・はじめに	1
・第9次苫前町社会教育中期計画策定にあたって	2
・苫前町民憲章	3
・苫前町教育目標	4
・目次	5
・第9次苫前町社会教育中期計画の基本的観点	6
・第8次苫前町社会教育中期計画の課題・懸案事項に対する方策の評価	8
・第9次苫前町社会教育中期計画における領域	1 6
・取り組む領域における現状と問題点・懸案事項	1 7
・各部会の作業シート	1 9
・第9次苫前町社会教育中期計画の目標	2 2
・基本方針・基本方策	2 4
・評価について	2 6
・評価シート・参加者アンケート	2 7
・答申	3 1
・諮問	3 2
・苫前町社会教育中期計画策定委員会設置要綱	3 3
・苫前町社会教育中期計画策定委員会委員名簿	3 4
・第9次苫前町社会教育中期計画策定審議経過	3 5
・第9次苫前町社会教育中期計画策定委員会議の様子	3 6

第9次苫前町社会教育中期計画の基本的観点

1. 本計画策定の趣旨

本町の社会教育は、これまで第8次苫前町社会教育中期計画に基づき、基本目標を「ひとを想い 笑顔で向き合えるまち とままえ」に、基本方針を「能動的な学習／スポーツの推進」「青少年の健全育成及び組織的な成人活動の推進」「芸術文化歴史教育活動の推進」の3つの柱とし、各種事業を推進してきました。

しかし、人口減少に歯止めがかからないことから少子高齢化が一層進むとともに、住民の価値観や生活習慣の多様化などにより社会教育事業の参加者の減少と固定化が見られます。

さらに新型コロナウイルス感染拡大が地球規模で深刻化しており、不要不急の外出自粛などに伴う社会教育施設の利用減少が見られ、リモートによる学習機会の創出なども普及しつつありますが、学校教育現場と比べ社会教育施設の通信環境の整備が遅れていることもあり、思うように実施できていないのが現状です。

このような状況の中でも社会教育活動は、人に学ぶことの楽しさや感動を与え、明日への活力となるきっかけとなるものであり、このことは人づくりや地域づくりにつながるものとして欠かすことができないものです。

社会情勢により学習や運動機会も自粛傾向にある中、改めて学習や運動する機会を提供し、住民に楽しさや充実感、仲間とともに感動を味わっていただき、また参加したいと思っていただけるよう努めていく必要があります。

このことから、社会教育の現状を踏まえるとともに、職員の社会教育に係る専門性の育成を図りながら、社会教育施策の体系化と社会教育活動推進の指針となる社会教育中期計画の策定が必要であると考えます。

2. 計画の性格と位置づけ

本計画は、苫前町民憲章・苫前町総合振興計画・苫前町教育目標との整合性を図った上で、本町の社会教育における現状把握と課題

整理を行い、今後5年後に目指す姿を明確にし、そこに向けた基本目標と施策を整理していくものです。

今回の計画ではこの5年間の中で重点的に取り組む分野を抜粋して計画づくりを進めることとしました。その他の分野については活動が停滞しないよう引き続き支援等を行っていくこととします。

さらにこれまでの計画では中期計画の評価をどのように行っていくかが明確に示されていませんでした。このことから事業毎に作成する評価シートを整備、単年度の評価に活用するとともに、その評価の積み上げが次期中期計画の評価につながるようにしました。

3、計画策定の手法

計画策定にあたっては、社会教育委員及びスポーツ推進委員を中心として公募による委員2名を含め15名で策定作業を進め、協議の際には合意形成を重視し、次のような段階を経て進めました。

- | | |
|----------------|-----------|
| ・現状の把握 | ・課題の整理・分析 |
| ・課題解決に向けた施策の検討 | |

今回、「少年」「青年・成人」「スポーツ」の3グループに分け、目標達成のために有効とされるマンダラート(※)の手法を用いた苦前版マンダラート「風車ラート」を使い、課題から設定した5年間の目標となる事項の設定、その目標を達成するための5つのキーワード、そしてそのキーワードを解決するための5つの事項を検討してもらい、本町の社会教育行政の目指すべき方向性を確認しました。

4、計画の期間

本計画は令和3年度から令和7年度までの5か年計画とし、今後5年間の社会教育推進の方向性を示すものです。

※マンダラート

マンダラートとは仏教に登場する曼荼羅(マンダラ)模様由来のもので、曼荼羅とアートを組み合わせた造語のこと。

曼荼羅模様のようなマス目を作り、そのマス目一つひとつにアイデアを書き込むことでアイデアの整理や拡大などを図り、思考を深めるもの。

第8次苫前町社会教育中期計画の課題・懸案事項に対する方策の評価

1 幼児教育・家庭教育

課題及び懸案事項

- I・有効的な親育が実施できていない。
- II・リフレッシュできていない親がいる。
 - ・集まる場所、預ける場所が少ない。
- III・他者との交流が少ない。（育児中の親）

課題解決の方策に対する評価

- I・親育に関する事業実施や情報提供をする。
 - ・気軽に参加しやすい工夫（保育所の帰り時間にあわせる等）をする。
 - ⇒ 情報提供としては、「ふるさと教育セミナー」や「親育講座」などの機会を実施できたが、「親育講座」は各学校のPTAの取り組みの差がある。
 - また、参加しやすい工夫としては、「幼児教育セミナー」は保育所を会場とし、子どもを預け参加できるよう進めた。
- II・親子で集まる場所・子どもを預ける場所の調整研究や情報提供をする。
 - ⇒ 計画当初より集まる場所として設定していた「なかよし広場」は子育て支援センターの充実により閉鎖した。また子どもを預ける場所の調査研究や情報提供がされていない。
- III・他者との交流がしやすい配慮をする。（時間・場所）
 - ・育児中でも気軽に参加しやすい事業の検討をする。
 - ⇒ 参加しやすい配慮として講座の会場を保育所にするなどの工夫ができた一方、苫前・古丹別地区の参加者数に大きな差がある。
 - また、交流を促すためカンガルースクールを実施、親子での体験や交流につなげている。

社会教育課の評価 4点満点中：3点

■ 2 少年教育（おおよそ小学生～高校生）

課題及び懸案事項

- I・自分に自信が持てない。
- II・子ども達の行ける場が少ない。
 - ・過保護（自己中心的）すぎる保護者がいる。
 - ・スマホ依存による生活リズムの乱れ



課題解決の方策に対する評価

- I・自分で考える力をつけるような事業を実施する。
 - ・コミュニケーション能力向上への支援をする。
 - ・様々な活動において、成功体験をさせる。（失敗を反省する）
 - ・何ごとにもチャレンジさせ、できた事に対してきちんと褒める。
 - ⇒ 苫前町少年少女体験教室（TDK）などの事業により自分で考え行動すること、他者と話しあい協力していくことの大切さを学べる機会が提供できており対応できている。
- II・安心して遊べる場をつくる。
 - ・遊び方、遊び場所を伝える（作る）。
 - ・学校と連携し、親の意識を変化させるよう情報提供をする。
 - ⇒ 遊び方や場所を伝えるために、水辺の楽校や未来港公園などの会場を活用し事業を実施した。
 - また、親の意識を変化してもらうためのものとして、「地域を見守る住民の集い」や「ふるさと教育セミナー」の開催や、就学時健診における親育事業などを実施したが、学んだ方に実際に行動の変容等が見られたかの確認は困難であり、それを振り返るようなアンケート調査なども実施しなかった。

社会教育課の評価 4点満点中：3点

■ 3 青年教育（おおよそ20代～30代）

課題及び懸案事項

- I・興味が多様化している。
- II・他者との交流が不足している。
- III・協調性のある人が少ない。

課題解決の方策に対する評価

- I・II・III・自主企画ができるような事業を実施する。
 - ・若者向けの企画を増やす。
 - ・若者の活動支援をする。（物や場所の提供）
 - ・活動のきっかけとなるよう事例の情報提供をする。
 - ・気軽に行きやすい場を設定する。

⇒ 青年が企画立案実施できるものとして平成29年度より「地方創生塾」を開催し、自分たちが地域のために何ができるかを考え、行動するよう促すことができた。

しかし、青年層の参加は限定的であり、参加してもらえないようなPR活動もできていない。

社会教育課の評価 4点満点中：3点

■ 4 成人教育（おおよそ30代～50代）

課題及び懸案事項

- I・地域が良くなる考えや関心が不足している。
- II・社会的な意識が足りない（地域への自覚や参加が不足している）
- III・地域での繋がりが少ない（必要とされていないと考えている）
- IV・多忙な日常を送っている。
 - ・情報環境が多様化している。

課題解決の方策に対する評価

I. II. III・組織や団体との連携等により参加する仕組みをつくる。

・地域を良くしようとする気持ちを持つキッカケをつくる。

⇒ 地域のことを考えるきっかけづくりとして、「ふるさと教育セミナー」などの機会を提供しているが、多くの方が参加につながるような取り組みにはならなかった。

IV・職場の理解及びトップを動かし、活動につなげる。

・スマホを持っていない人への丁寧な対応をする。

⇒ 職場等への働きかけがなされておらず、また情報社会に関連した事業もできていない。

社会教育課の評価 4点満点中：2点

5 高齢者教育（おおよそ60代～）

課題及び懸案事項

I・異世代交流の機会が少ない。

・地域での繋がりが少ない。

・活動、活躍の場が少ない。

課題解決の方策に対する評価

I・行事等に積極的に参加を促す。

・出かける場をつくる。

・必要とされる場をつくる。

・「張り合い」と「生きがい」を持ってもらう。

⇒ 「シニアスクール」として参加する機会の創出はできたが、その他の交流機会、生きがいづくりに資する活動の創出ができていない。

社会教育課の評価 4点満点中：2点

1 文化振興

課題及び懸案事項

- I ・ 様々な年齢層への文化振興がされていない。
- ・ 本町の郷土史に興味関心が少ない。



課題解決の方策に対する評価

- I ・ ジャンルや年齢層が隔たらないよう配慮した事業を行う。
- ・ 町の歴史及び文化財等の情報提供をする。
 - ⇒ 文化協会など団体による文化事業を提供できたが、社会教育課として文化振興のための事業や情報提供などができていない。

社会教育課の評価 4点満点中：2点

2 スポーツ振興

課題及び懸案事項

- I ・ 指導者を増やしたい。
- ・ 施設や事業がニーズに合っていない。
- ・ 気楽に誰でも参加できない。
- ・ 身近な施設が少ない。
- ・ 施設はあるが利用できない。
- ・ 子どもの活動が学校任せである。
- ・ 団体スポーツへの参加が減少してきている。



課題解決の方策に対する評価

- I ・ 日常的にスポーツに取り組める環境をつくる。
- ・ 多種目の様々なスポーツ体験ができる機会をつくる。
- ・ 年代毎のスポーツ振興計画（目安）をつくる。

- ・ 指導しやすい機会や場づくりと環境をつくる。
- ・ 空き時間がでないように施設の有効活用をする。
- ・ 苦手な人や高齢者等への対応した事業を行う。
- ・ 競技性か体力づくりか事業目的を明確にする。

⇒ 子どもや成人を対象としたスポーツ教室などの体験の機会は創出できているものの、スポーツの苦手な方や高齢者に特化した事業の実施ができていない。

また、年代毎の計画もできていない。

社会教育課の評価 4点満点中：2点

3 読書活動

課題及び懸案事項

- I ・ 読書をするきっかけがない。
 - ・ ニーズに応じた読書環境が少ない。
 - ・ 必要とする情報が不足している。
 - ・ 多種多様な機能が不足している。



課題解決の方策に対する評価

- I ・ イベントや情報発信による読書普及活動をする。
 - ・ 多様化するニーズに応じた情報発信をしていく。
 - ・ 書店等との差別化を推進していく。
 - ・ 多種多様な図書室機能を充実させる。

⇒ 児童・生徒には学校図書との連携や「移動図書室」「図書関係事業」などの事業により読書を促すための活動ができていますが、成人や高齢者などの世代に読書を促すための展開ができていない。

社会教育課の評価 4点満点中：2点

課題及び懸案事項

- I・個人主義により、つきあいが希薄化している。
- II・スムーズな情報発信ができていない。
 - ・集まる機会が少ない。
 - ・「学校」と「地域」のつながりが少ないと感じる。
 - ・学社融合事業の環境やニーズにあったものが少ない。
- III・人の交流、つながりが深まる仕組みが不足している。
 - ・主催者も客側として楽しめていない。



課題解決の方策に対する評価

- I・II・III・子どものためにという目的が人を動かす。
 - ・趣味・同世代など別方向からつながりをもたせる。
 - ・自由参加は誰も参加しない。あなたに来てほしいという呼びかけをする。
 - ・団体をリーダーとするような仕掛けをする。
 - ・「交流できる場所」「気軽に語らえる場所」を作る。
 - ⇒ 地域に関することを考える機会として、講演会などを実施しているが、実際の行動につなげられるような活動ができていない。

社会教育課の評価 4点満点中：2点

第8次苫前町社会教育中期計画の評価のまとめ

各領域	評価
幼児教育・家庭教育	4点満点中3点
少年教育	4点満点中3点
青年教育	4点満点中3点
成人教育	4点満点中2点
高齢者教育	4点満点中2点
文化振興	4点満点中2点
スポーツ振興	4点満点中2点
読書活動	4点満点中2点
地域づくり	4点満点中2点

「幼児教育・家庭教育」「少年教育」「青年教育」は「どちらかといえどできた」、その他の領域については「どちらかといえどできなかった」と評価した。これは、学習機会を提供することができた一方で、参加者の固定化や行動変容を見ることができなかったことなどから、満点としなかった。

また、4点満点のうち2点としたものは、第8次中期計画の期間中に事業等は推進することができたものの、課題解決に近づけるための積極的な事業展開ができなかったことからこの点数としたものである。

併せて各課題解決の方策の中で、この5年間で行動の変容を促すことが難しいものや、社会教育課だけの取り組みでは解決が難しいものなどがみられたことも評価を上げることができなかった要因である。

以上のことから第9次苫前町社会教育中期計画は、次のことに留意して作成が必要であるものとした。

- ・これまでの社会教育中期計画では、社会教育の全ての領域を網羅してきたが、少ない予算を効果的に効率的に活用するためにも重点的に取り組む領域を定め、積極的に取り組んでいく必要がある。
- ・5年間で取り組むことが可能であるものに絞ることが必要である。
- ・第10次苫前町社会教育中期計画の基礎資料となる年度毎の評価、事業毎の評価の積み上げについて明記する必要がある。

第9次苫前町社会教育中期計画における領域

第8次苫前町社会教育中期計画の評価により第9次苫前町社会教育中期計画において取り組む領域については、次の3つの領域とします。

・少年教育 ・青年・成人教育 ・スポーツ振興

これからの社会を担う子ども達は、激しく変化していく社会環境に対応していくことが求められるとともに、「いつまでも暮らしていけるまち苫前に」として「ふるさと苫前」を知り、好きになり、住んでいきたいと思ってもらえるよう苫前町の豊かな自然を活かした体験や生活体験などにより様々な人との関わりを通して成長してほしいことから取り組むものです。

青年・成人はこれからのまちづくりを担っていく貴重な人材ですが、自身のスキルアップや持っている能力・技術をまちのため、人のために使い感謝されること、また新しい仲間との出会いや協力し合う経験は、明日への活力につながり、この世代がいきいきと活躍することでまちが元気につながることから、取り組むものです。

最後に身体を動かすなどのスポーツは、ストレスの解消や仲間意識を高めること、そして社会生活を送るための体力を保つ重要な要素ですが、残念なことに日常的に運動する方の減少が続いています。

このような運動不足は筋力や基礎代謝の低下につながり、生活習慣病などの健康への影響を及ぼすことにもつながります。そのため健康寿命を延ばすことがこれからの時代で生活していくには非常に重要となります。

これからは楽しむスポーツも大切ですが、健康を維持していく・高めていくための運動をする人を増やすことが、元気な人が多いまち苫前につながることから、取り組むものです。

今回の重点として取り上げていない領域は、現状を下回らないよう継続した支援や事業展開を行っていくものとします。

取り組む領域における現状と問題点・懸案事項

■少年教育

現状

- ・少子化により子ども会の会員数が減少している
- ・カルタに参加する子どもの減少している
- ・公共施設や屋外にゴミを放置する子どもがいる
- ・子どもの居場所がない
- ・携帯電話の所持率は少ないものの、携帯ゲームは大半の子どもが持っておりインターネットに接続できる環境がある



問題点・懸案事項

- ・子ども会活動が停滞化・マンネリ化している
- ・子どもの体験活動に誰でも参加できない。また参加に偏りがある
- ・子どもの規範意識の低下している
- ・外で遊ぶ子どもが減少している
- ・インターネット社会の進展に伴う生活への影響が大きくなっている



目標

心身ともに健康な子どもの育成の推進

■青年・成人教育

現状

- ・農協・漁協・商工会などの青年団体以外の青年団体がない
- ・講座に新たな参加者が少ない
- ・教養的な内容を実施していない
- ・子どものネット利用を親が把握していない



問題点・懸案事項

- ・青年活動への参加が固定化している
- ・成人の学習機会への参加者の固定化と行動変容が確認できない
- ・趣味関係への偏りと教養的内容に人が集まらない
- ・地域的なつながりが薄れている
- ・団体に所属したがる傾向がある（個人主義）
- ・仕事が多忙であり地域活動や学習機会への参加に意識が向かない
- ・ネット社会に大人がついていけない（子どもへのしつけなど）



目標

地域のつながりを深める学びの提供

■スポーツ振興

現状

- ・子どもの減少に伴いスポーツ少年団加入者が減っている
- ・スマホやゲームの普及に伴い身体を動かす機会が減っている
- ・通年の事業の取り組みがない
- ・体育協会加盟団体・会員の減少している
- ・大会や体験教室などの参加が少ない



問題点・懸案事項

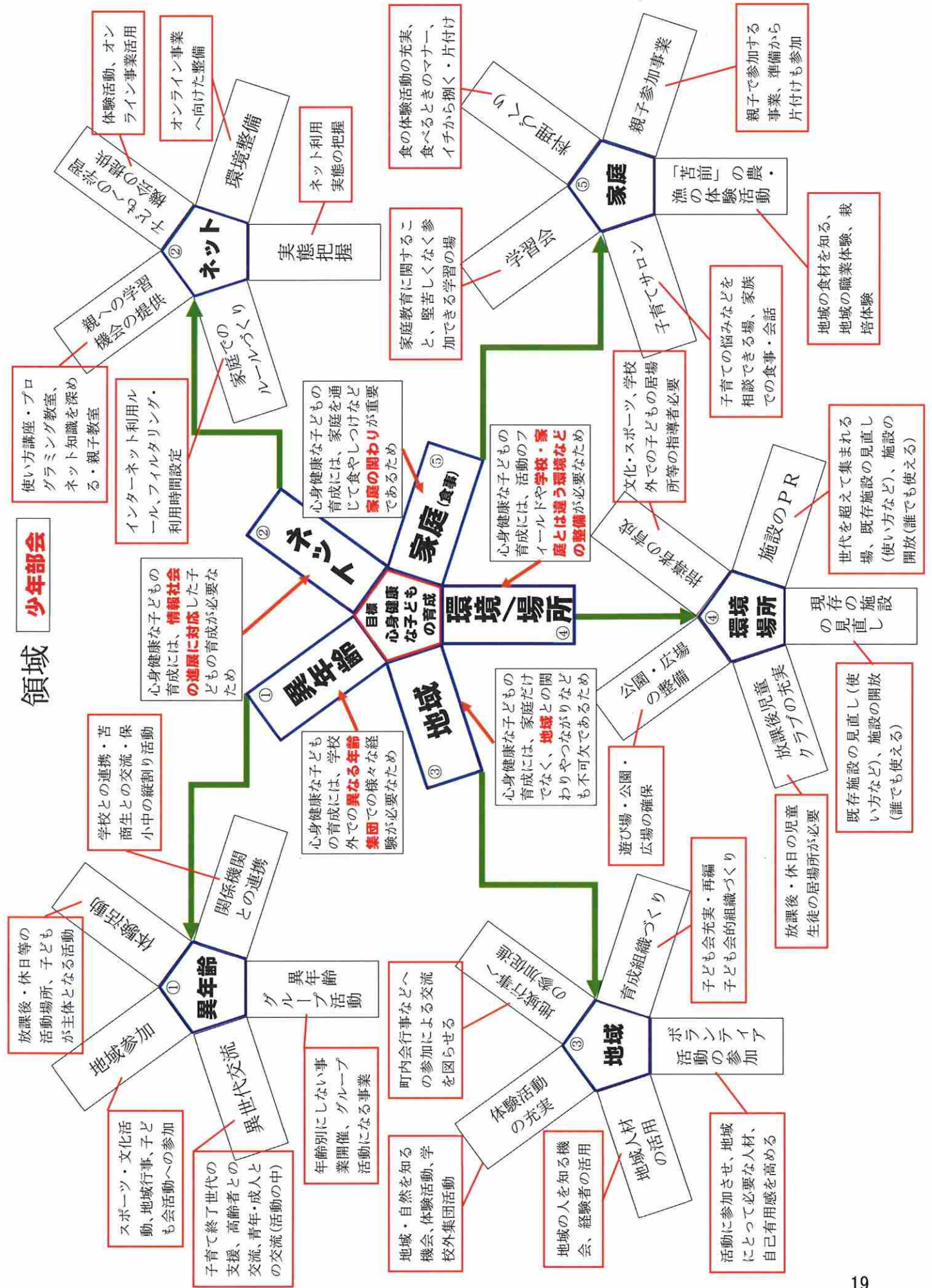
- ・スポーツ少年団の団員が減少している
- ・運動嫌いの子どもの増加しつつある
- ・肥満傾向が増加しつつある
- ・スポーツが習慣化していない
- ・仕事の多忙化により運動への結びつきが減退している
- ・大会・教室への参加者が減少している
- ・催しが単発化となっている
- ・行動変容がわかるような事業の展開が必要である
- ・施設の利用状況がわかりづらい



目標

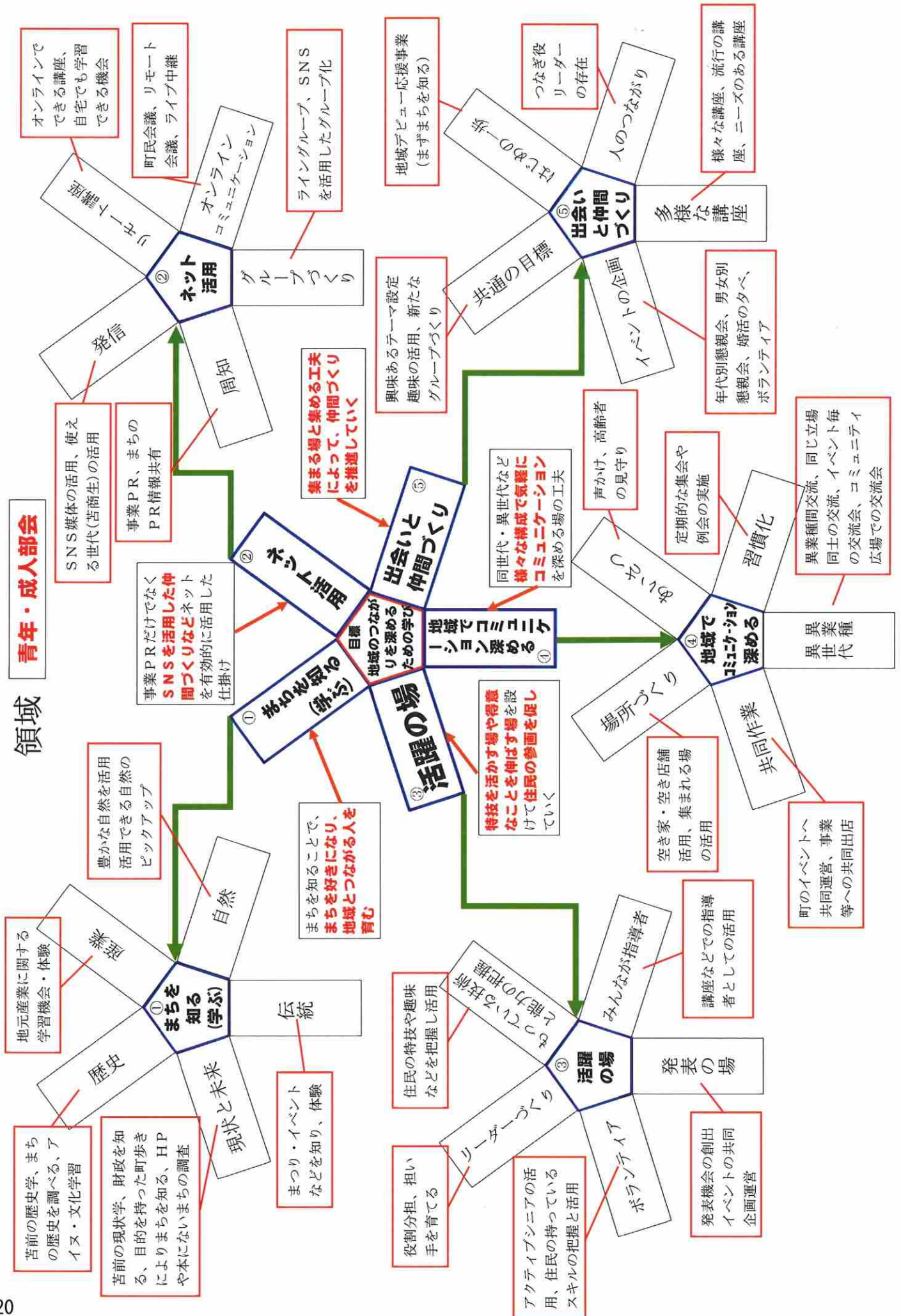
スポーツの習慣化への活動を推進

領域 少年部会



青年・成人部会

領域



第9次苦前町社会教育中期計画の目標

1. 計画の基本目標

苦前町民憲章

- 心と体をきたえ、元気ではたらき、活気あふれる豊かなまちをつくります。
- 教養をたかめ、視野を広げて、北方の風土に根ざした心豊かなうらおいのあるまちをつくります。
- きまりを守り、たがいに助け合って、明るく住みよいまちをつくります。
- 未来をつくる若い芽を育て、希望にみちた力みなぎるまちをつくります。
- 自然を愛し、環境をととのえ、きれいなまちをつくります。

苦前町教育目標

- 健康で、実行力のある人
- 個性を生かし、創意工夫する人
- 心豊かで、思いやりのある人
- 勤労意欲をもち、責任を果たす人
- 郷土を愛し、国際社会に生きる人

苦前町社会教育目標

「まちの活力を高め、優しさとふれあいがあふれる人づくりを目指して」

少年教育

心身健康な子どもの育成を図ります。

- ・様々な世代との交流
- ・ネットの活用
- ・地域を巻き込んだ活動
- ・既存施設・環境の活用
- ・親子のつながりを深める活動

青年・成人教育

地域のつながりを深める学びを進めます。

- ・まちを知り、学ぶ活動
- ・ネット、SNSの活用
- ・活躍の場の創造
- ・コミュニケーションを深める活動
- ・出会いと仲間づくり

スポーツ振興

スポーツの習慣化への活動を推進します。

- ・スポーツ教室の推進
- ・組織・体制の強化
- ・施設の有効活用
- ・関係機関・団体との連携
- ・広報活動の強化

幼児教育・家庭教育・高齢者教育・文化振興・読書活動・地域づくり

- 活動意欲が損なわれないよう、継続した支援を行います。
- ニーズや学習相談などの拾い上げに努め、事業等の実現に努めます。

2. 社会教育目標の設定理由

本町は過疎化に伴う人口減少や高齢化などが続く状況の中、近年では新型コロナウイルスが世界的にまん延し、その影響は本町でも感染を防止する観点から、住民は不要不急の外出自粛などにより学ぶ機会、身体を動かす機会も減少し、そのことが社会教育活動に大きく影響しています。

このような中でも、住民らの「学びたいときに学ぶことができる」「運動したいときに運動できる」体制づくりが必要であり、感染対策に留意しながら学習機会の提供を進めていく必要があります。

それらを踏まえ、まちの活力を高める中心世代となるのが「少年」「青年・成人」であり、何よりその意欲を高めるためには何より住民らが健康である必要があります。

このことから第9次社会教育中期計画では、重点的に取り組む世代を絞り、学習や運動機会を創出、その活動の中心となるべき世代の底上げをしていき、他の世代を引き上げていくことが必要として進めることとしました。

今回取り上げなかった世代や項目は、現状を維持していくことができるよう支援していき、その時代のニーズや話題性なども注視しながら施策を展開するものとしてしました。

この中心となる世代が健康で、学習する意欲を社会教育活動などから高め、交流し合い、助け合いながら人としての資質を高めていき、さらにいろいろな人を巻き込みながら高め合っていくことが必要として、

<p>「まちの活力を高め、優しさとふれあいが あふれる人づくりを目指して」</p>
--

を社会教育目標として設定しました。

もちろんこの社会教育目標が、本町の目標でもある「いつまでも暮らしていける苦前に」の実現に近づけるものとなります。

3. 基本方針と基本方策

○少年教育

目標	基本方針	基本方策	主な事務事業
心身健康な子どもの育成の推進	多様な学習機会の提供	様々な世代との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動の提供 ・世代間の交流ができる事業の提供
		地域を巻き込んだ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人とのかかわりを創出した活動 ・ボランティア活動の受け入れ推進
		親子のつながりを深める活動	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で参加できる事業の提供 ・家庭教育に関する学習機会の提供
	環境整備と有効活用	インターネットの有効活用と学習機会	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン環境整備と事業の提供 ・親へのネット知識を深める機会の提供
	苦前フィールドの有効活用	既存施設・環境の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも利用できる施設の周知強化 ・野外活動指導者の発掘

○青年・成人教育

目標	基本方針	基本方策	主な事務事業
地域のつながりを深める学びの提供	地域とのかかわりをつくる機会の創出	まちを知り・学ぶ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの魅力を発見できる事業等の提供 ・一つの目的を共有できる事業の提供
		活躍の場の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・講座等における住民の活用 ・アクティブシニアの活用
	人と人をつなげる機会の提供	コミュニケーションを深める活動	<ul style="list-style-type: none"> ・異業種間による交流機会の提供 ・サークル化を視野に入れた事業の提供
		出会いと仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な講座や交流イベントの提供 ・目標を共有するグループづくりの推進
	環境整備と有効活用	インターネット・SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット環境の整備と中高生の活用 ・SNSによる仲間づくりの検討

○スポーツ振興



第9次苫前町社会教育中期計画の評価

これまでの評価は、担当者における評価であり担当者が変われば、その評価もその年によって変動する可能性もありました。また、事業アンケートについても事業毎に作成していたり、アンケートを徴取していない事業もあるなど統一したものではありませんでした。

今回の計画では、一般参加者用と小中高校生用のアンケート様式を定め、この5年間で統一した評価シートにより実施し、単年度の評価に活用するとともに、単年度の積み上げを第10次苫前町社会教育中期計画へつなげられるようにしました。

参加者アンケートでは、「性別や年代」のほか、この事業を知った方法、事業の感想、事業の運営に関する評価を4点満点で評価することとしました。

特に一般参加者用のアンケートには、「有料でも参加」「無料なら参加」などの項目を設け、「有料でも参加」が一定数だった際には、サークル化などを視野に入れることができるよう項目を設けました。

質問項目が多いと回答してもらえない可能性もあることから、現時点で必要最小限の質問項目とし、事業を実施している中でアンケートの項目に追記したいものが出てきた際には、このシートに加えるものとして、柔軟に対応できるようにします。

加えて、この評価は本計画の領域となる「少年」「青年・成人」「スポーツ」以外の領域についても徴取するものとし、次回の計画で取り組む領域が変更となった際にも活用ができるようにします。

事業担当者の評価も「目的設定」「達成度合」「事前準備」などを4段階評価できるようにしており、これに参加者アンケートを添付、事業毎に評価シートを作成し、まとめるものとしします。

事業担当者の評価

事業名					
実施日	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日	参加人数	人
会場				担当者	
対 象	<input type="checkbox"/> 家庭教育	<input type="checkbox"/> 高齢者	主 催	<input type="checkbox"/> 教育委員会	<input type="checkbox"/> 公民館
	<input type="checkbox"/> 少年	<input type="checkbox"/> 全町民		<input type="checkbox"/> スポーツ施設	<input type="checkbox"/> 資料館
	<input type="checkbox"/> 青年	<input type="checkbox"/> その他		<input type="checkbox"/> 社会教育団体	<input type="checkbox"/> 苫前町
	<input type="checkbox"/> 成人	()		<input type="checkbox"/> その他 ()	
予 算	<input type="checkbox"/> 報償費	<input type="checkbox"/> 委託料	参加料	<input type="checkbox"/> なし	円
	<input type="checkbox"/> 旅費	<input type="checkbox"/> 使用料		<input type="checkbox"/> あり	
	<input type="checkbox"/> 需用費	<input type="checkbox"/> その他			
事業 目 標 〔事業前 に記入〕				目標値	実績値
				目標値	実績値
				目標値	実績値
評価項目(評価項目一番上を4点とし、下に行くごとに1点減点)					
① 目的 設定	<input type="checkbox"/> 非常に適切 <input type="checkbox"/> やや適切 <input type="checkbox"/> やや不適切 <input type="checkbox"/> 非常に不適切	② 達成 度合	<input type="checkbox"/> 十分に達成 <input type="checkbox"/> おおよそ達成 <input type="checkbox"/> やや不十分 <input type="checkbox"/> 非常に不十分	特記事項(不十分な際は記載必須)	
③ 日時 曜日 設定	<input type="checkbox"/> 非常に適切 <input type="checkbox"/> やや適切 <input type="checkbox"/> やや不適切 <input type="checkbox"/> 非常に不適切	④ 会場 設定	<input type="checkbox"/> 非常に適切 <input type="checkbox"/> やや適切 <input type="checkbox"/> やや不適切 <input type="checkbox"/> 非常に不適切	特記事項(不十分な際は記載必須)	
⑤ 流れ 日程	<input type="checkbox"/> 非常によい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 非常に悪い	⑥ 講師 選定	<input type="checkbox"/> 非常によい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 非常に悪い	特記事項(不十分な際は記載必須)	
⑦ 参加者 の反応	<input type="checkbox"/> 非常によい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 非常に悪い	⑧ 参加 態度	<input type="checkbox"/> 非常によい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 非常に悪い	特記事項(不十分な際は記載必須)	
⑨ 事前 準備	<input type="checkbox"/> 非常によい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 非常に悪い	⑩ 後片 付け	<input type="checkbox"/> 非常によい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 非常に悪い	特記事項(不十分な際は記載必須)	
⑪ 周知 方法	<input type="checkbox"/> 非常によい <input type="checkbox"/> ややよい <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 非常に悪い	⑫ 事業 継続	<input type="checkbox"/> 優先的に継続 <input type="checkbox"/> できれば継続 <input type="checkbox"/> なくてもよい <input type="checkbox"/> 継続必要なし	特記事項(不十分な際は記載必須)	
評価項目合計点 (満点48点)					点

アンケート集計表（別紙アンケート添付）					
状況	参加者数	人	回収	人	回収率 %
性別	男	人	女	人	合計 人
学校別内訳	小学生	人	中学生	人	高校生 人
年代 〔小中高の 際は不要〕	～20代	人	30代	人	40代 人
	50代	人	60代	人	70代～ 人
回答状況 集計表	①この事業をどのように知りましたか？				
	広報誌	人	ポスター	人	友人知人 人
	回覧	人	ホームページ等	人	その他 人
	その他の回答				
	②この事業の感想と、その理由について教えてください。				
	4点	人	2点	人	理由の 主な内容
	3点	人	1点	人	
	③この事業をまた開催した場合は参加したいですか？				
	4点	人	2点	人	理由の 主な内容
	3点	人	1点	人	
	④この事業を通年で開催する場合、参加したいですか？（一般のみ項目あり）				
	有料でも	人	無料なら	人	参加しない 人
	⑤普段の生活に活かせるようなものはありましたか。				
	4点	人	2点	人	理由の 主な内容
	3点	人	1点	人	
⑥この部分が参考になった。このあと何か行動したいことがあれば記入					
⑦要望などがあれば記入					

参加者アンケート（小中高生用）

1. あなたのことにについて伺います。

- ①性別 ②学校 ③学年
- 男 小学校 高校 1年 3年 5年
- 女 中学校 2年 4年 6年

2. この事業の感想について伺います。

①この事業をどのように知りましたか？

- 広報誌 ポスター 友人・知人
- 回覧 ホームページ その他

②この事業の感想と、その理由について教えてください。

- とてもよかった（4点） ややつまらなかった（2点）
- ややよかった（3点） とてもつまらなかった（1点）

理由	
----	--

③この事業をまた開催した場合は参加したいですか？

- ぜひ参加したい（4点） 参加しないかも（2点）
- やや参加したい（3点） 参加しない（1点）

理由	
----	--

④普段の生活に活かせるようなものはありましたか。

- 活かせるものが多々あった 活かせるものが一部あった
- 活かせるものはあまりなかった 活かせるものは全くなかった

理由	
----	--

⑤この部分が参考になった。このあと何か行動しようと思ったことがあれば、下に記入をお願いします。

自由 記述	
----------	--

⑥開催してほしい事業などの要望があれば教えてください。

--

参加者アンケート（一般参加者用）

1, あなたのことについて伺います。

①性別

男

女

②年代

~20代

50代

30代

60代

40代

70代~

2, この事業の感想について伺います。

①この事業をどのように知りましたか？

広報誌

回覧

ポスター

ホームページ

友人・知人

その他

②この事業の感想と、その理由について教えてください。

非常に満足（4点）

やや満足（3点）

やや不満（2点）

とても不満（1点）

理由	
----	--

③この事業をまた開催した場合は参加したいですか？

ぜひ参加したい（4点）

やや参加したい（3点）

やや参加したくない（2点）

参加したくない（1点）

理由	
----	--

④この事業を通年で開催する場合、参加したいですか？

有料でも参加

無料なら参加

参加しない

⑤普段の生活に活かせるようなものはありましたか。

活かせるものが多々あった

活かせるものはあまりなかった

活かせるものが一部あった

活かせるものは全くなかった

理由	
----	--

⑥この部分が参考になった。このあと何か行動しようと思ったことがあれば、下に記入をお願いします。

自由記述	
------	--

⑦開催してほしい事業などの要望があれば教えてください。

--

答 申

令和3年3月24日

苫前町教育委員会
教育長 池田 文敏 様

苫前町社会教育委員の会議
議長 早川 日出利

第9次苫前町社会教育中期計画について（答申）

令和2年4月6日付けで諮問されました「第9次苫前町社会教育中期計画」について、苫前町社会教育委員10名、スポーツ推進委員3名、公募による委員2名の合計15名による「第9次苫前町社会教育中期計画策定委員会」を組織、審議を重ね、その結果がまとまりましたので、ここに答申いたします。

本答申は、苫前町民憲章、苫前町教育目標を基本として、「第5次苫前町総合振興計画」との整合を図り、本町における社会教育の現状と課題を踏まえ、慎重に進めてきたものであります。

これまでは社会教育全ての領域を網羅し対応してきたところですが、今回の計画では、重点的に行う分野を絞って策定しており、この5年間で集中的に実施していくものとしています。

また、策定作業では「苫前版マンダラート」の手法を用いて、現状と課題から目標を導き出し、どのようなアプローチにより対応していけばよいかを策定委員・職員で検討しました。

さらに、統一した評価シートにより単年度の評価を積み上げ、次の中期計画の評価として活用できるよう決めました。

このコロナ禍における社会教育の推進は、外出の自粛などにより住民の学びや運動の自粛にもつながり大きな影響を受けていますが、新型コロナウイルス感染拡大に配慮しつつ「学びたいときに学ぶことができる」「運動したいときに運動できる」という環境づくりは保っていかなくてはなりません。

今後、社会教育の推進にあたっては、本答申の趣旨が十分反映され、「まちの活力を高め、優しさとふれあいがあふれる人づくりを目指して」に近づくことができるよう期待いたします。

諮問文

令和2年4月6日

苫前町社会教育委員の会議
会長 早川 日出利 様

苫前町教育委員会
教育長 池田 文敏

苫前町社会教育中期計画の策定について（諮問）

このことについて、次のとおり理由を附して諮問しますので、令和3年3月までに答申下さいますようお願いいたします。

記

1 諮問理由

苫前町教育委員会では昭和56年に苫前町社会教育中期計画を策定して以来、8次にわたり社会教育中期計画を策定し、これらを本町社会教育の基本方針として教育関係者をはじめ町民各位のご協力を得ながら、総合的・計画的に施策を推進して参りました。

この間、情報化の進展やキャッシュレスなどによる利便性の向上などが図られ人々の生活環境が豊かになった一方、人口減少に伴う少子高齢化の加速、人間関係の希薄化などの影響により地域においても個々同士のつながりが薄れ、そのことにより地域の教育力も低下しています。

このような社会情勢や地域の現状等を踏まえ、さらなる社会教育活動をさらに推進していくためには、本町における社会教育の現状と課題を明確にした上で、時代の変動等にも対応できる計画的な事業推進を図っていく必要があります。

このため、今後5年間の本町における社会教育の基本的な方向性と、「いつまでも暮らしていける苫前町に」の実現に向けた総合的かつ計画的に講ずるべき施策を示した苫前町社会教育中期計画の策定について諮問いたします。

2 計画策定の主な視点

- (1) 社会教育の現状と課題
- (2) 社会教育推進のための施策の体系化
- (3) 計画の評価手法

3 計画の期間

令和3年度から令和7年度までの5年間

苫前町社会教育中期計画策定委員会設置要綱

平成27年苫前町教育委員会訓令第3号

(目的)

第1条 苫前町における社会教育の振興を図るため、地域の実情を的確に把握するとともに住民の要望や社会の要請に即した中期計画を策定するため、苫前町社会教育中期計画策定委員会(以下「策定委員会」という。)の設置に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(任務)

第2条 策定委員会は、次の事項に関して調査研究を行い、社会教育委員の会議に具申するものとする。

- (1) 苫前町社会教育中期計画の策定に関する事
- (2) その他苫前町社会教育中期計画の策定上必要と認める事項に関する事

(組織)

第3条 策定委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 社会教育委員
- (2) スポーツ推進委員
- (3) 苫前町に居住する者で、教育委員会が認めた者

3 委員の任期は、委嘱の日から社会教育委員の会議に具申する日までとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 策定委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は策定委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 策定委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議の議長は委員長がこれにあたる。

3 策定委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

4 会議の議決は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(庶務)

第6条 策定委員会の庶務は、社会教育課社会教育係において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が策定委員会に諮って定める。

附 則 (平成22年苫前町教育委員会訓令第3号)

1 この訓令は、公布の日から施行する。

2 最初に行われる策定委員会の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。

附 則 (平成27年苫前町教育委員会訓令第2号)

この訓令は、公布の日から施行する。

第9次苫前町社会教育中期計画策定委員会名簿

【委員】

任期：令和2年5月29日から具申の日まで

氏名	所属	住所	担当部会	備考
本間 博樹	社会教育委員	苫前	スポーツ	
石田 正樹	社会教育委員	古丹別	少年	
藤田 和秀	社会教育委員	古丹別	青年・成人	
仁木 綾香	社会教育委員	古丹別	少年	
川森のり子	社会教育委員	古丹別	青年・成人	
青木久美子	社会教育委員	古丹別	少年	
輪島 慎介	社会教育委員	苫前	少年	
早川日出利	社会教育委員	九重	少年	
小笠原宏一	社会教育委員	苫前	青年・成人	
加藤 隆雄	社会教育委員	古丹別	青年・成人	
奥山 和彦	スポーツ推進委員	古丹別	スポーツ	
杉澤裕希子	スポーツ推進委員	古丹別	スポーツ	
福田 怜也	スポーツ推進委員	古丹別	スポーツ	
逢坂 浩	推薦	古丹別	青年・成人	
伊藤 通康	推薦	古丹別	スポーツ	

【事務局職員】

氏名	職名	担当部会	備考
森 哲也	社会教育課長	全体	
川森 和美	社会教育係長	全体	
泉 泰仁	主査	少年	
今野 雄一	主査	青年・成人	
宇佐美知也	主査	スポーツ	
安藤 麻里	主査（司書・社会教育主事）	青年・成人	
長野 陽一	主任主事	スポーツ	
岩村 直幸	生涯学習推進アドバイザー	少年	

第9次苫前町社会教育中期計画策定審議経過

期 日	審議等の内容
令和2年2月28日	社会教育委員・スポーツ推進委員合同研修会 ・中期計画について学習会 ・グループワーク ・参加者 12名（各委員・社会教育職員）
令和2年3月30日	令和2年第2回苫前町教育委員会定例会 ・協議第1号 第9次苫前町社会教育中期計画の策定について
令和2年4月6日	苫前町教育委員会から苫前町社会教育委員の会議へ諮問
令和2年4月～5月	苫前町社会教育委員中期計画策定委員の公募 ・委員2名を公募
令和2年6月17日	社会教育中期計画策定方法及び手順確認のための職員研修 ・8名（社会教育職員）
令和2年6月30日	苫前町社会教育委員の会議より苫前町社会教育中期計画策定委員会へ具申 第1回策定委員会議 ・辞令交付 ・組織体制とスケジュール ・委員長と副委員長の選任 ・部会の設置 ・計画策定の手順（ワークショップ） ・委員12名・職員7名
令和2年11月24日	第2回策定委員会議 ・部会に分かれて協議（ワークショップ） ・委員8名・職員8名
令和2年12月16日	第3回策定委員会議 ・部会に分かれて協議（ワークショップ） ・委員13名・職員8名
令和3年3月22日	第4回策定委員会議 ・計画書案に対する意見等徴取
令和3年3月22日	苫前町社会教育中期計画策定委員会より苫前町社会教育委員の会議へ具申
令和3年3月24日	苫前町社会教育委員の会議より苫前町教育委員会へ答申
令和3年3月25日	第9次苫前町社会教育中期計画策定 （令和3年第2回苫前町教育委員会定例会 議案第16号上程）

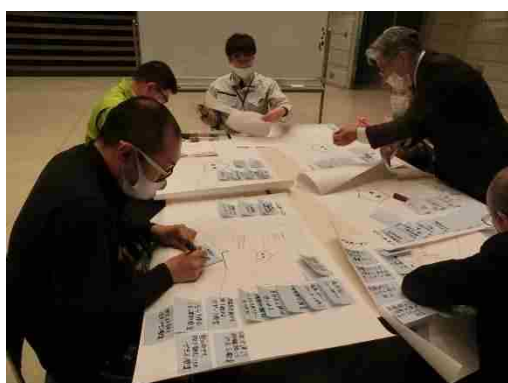
第1回策定委員会の様子



第2回策定委員会の様子



第3回策定委員会の様子



第4回策定委員会の様子

